



## LEVORG LAYBACK Debut!

### 開発スタッフが語る、 SUBARUの新型SUVに込めた想い

この秋、SUBARUの新しいSUV、レヴォーグ レイバックが発売されました。レイバックという車名は「くつろいだ」「ゆったりとした」を意味する「laid back」に基づいて造られたものです。その車名のとおり、開発の背景には「くつろげる空間」や「豊かさ」を提供することで、お客様の人生を豊かにするSUVを造りたいという想いがありました。今月の特集は、レヴォーグ レイバックの開発全体を指揮したプロジェクト ジェネラルマネージャーと、豊かで洗練された内外装のデザインをまとめあげたデザイナーに登場してもらい、これまでのSUBARUにはなかった独自の世界観を持つSUVを、どのようにして造り上げていったのか語っていただきました。

写真は東京・恵比寿にあるSUBARU STAR SQUAREで行われたレヴォーグ レイバック アンベイルイベントに登場した小林正明プロジェクト ジェネラルマネージャーと発表直後のレヴォーグ レイバックです。

都市空間でお客様に豊かな洗練された時間を提供する

## 「土の香り」がしないSUV」を目指して

株式会社SUBARU  
商品企画本部プロジェクトジェネラルマネージャー

小林正明



### SUVの新カテゴリーに挑戦

10年程前から世界的にSUVの市場規模が拡大し、そのシェアは乗用車全体の6割を超えるまでに成長しました。SUBARUもフォレスター、レガシアウトバック、クロスレックなどをラインアップしており、SUVに強いというブランドイメージを持つておられる方も多いと思います。それはとてもありがたいことですが、SUVに

興味を抱いている方のご要望をより詳しく調べていくと、「アウトドア」「ラギッド」とは別に「都会的な」イメージのクルマを望んでいる方が多くいらっしゃるということが分かりました。

そこで、都会的なSUV」という新しいクルマ造りに挑戦するという今回のプロジェクトがスタートしたのです。

### 「都会的なSUV」を具現化する4つの価値

「都会的な」イメージのクルマといても言葉だけでは具体像にながりません。そこでさらにお客様がクルマの購入時に重視しているポイント抽出すると、「スタイル／外観」「内装品質の良さ」「仕立ての良さ」を意識していることが分かりました。これを踏まえて、SUBARUの新しいSUVが提供する4つの価値を決めました。「上質さ」「スポーティな走り」「先進安全」「行動範囲を広げる自在性」です。

「スポーティな走り」は、SUVの優れた走破性を持ちながら、乗り心地やオンロードでの走りの良さも両立したかったので、ダンパーやコイルスプリングに専用のセッティングを施しています。その結果、段差を越える際の収束性も速く、コーナリングではロールをしっかりおさえ、ステアリングから足回りに

つながっていく動きがとてもスムーズに仕上がっています。これはSUBARUだから実現できたところだと自負しております。機会があればぜひ試乗して感じていただきたいポイントです。

従来から高い評価を得ている「先進安全」については、今回3つのカメラで交差点での回避能力を強化した最新型のアイサイトを搭載。さらに、見通しの悪い交差点など、速度が時速15km未満になるとマルチビューモニターの画面を自動でフロントビューカメラの画像に切り替える「フロントビュー自動表示」機能も全車に標準装備しました。もともと持っているレヴォーグの高い収納性はキープしつつ、最低地上高200mmのSUVならではの走破性をプラスすることでワゴン価値を進化させ「行動範囲を広げる自在性」を付与しました。



先進の安全機能とスポーティな走り、質感の高さを兼ね備えたスタイリッシュSUV。

# LEVORG LAYBACK Limited EX

1.8L直噴ターボ“DIT” リニアトロニック AWD(常時全輪駆動)  
 メーカー希望小売価格(消費税10%込) 3,993,000円 消費税抜き価格 3,630,000円



PHOTO: (左)セラミックホワイト (右)マグネタイトグレー・メタリック



※33,000円高(消費税10%込) ※※55,000円高(消費税10%込)



## アウトドアデイジャパン神戸で注目を集めました!

キャンプやアウトドアに関連したコンテンツを存分に体感できる国内最大級の“体験・体感型”アウトドアイベント「アウトドアデイジャパン神戸2023」が9月30日、10月1日の二日間にわたって開催されました。SUBARUブースでは、プリクラッシュブレーキ体感試乗やレヴォーグレイバックの展示もあり多くのお客様で賑わいました。お客様からは、「レイバックの質感の高さに驚いた」「レイバックのかっこよさに一目惚れした」などのコメントが寄せられました。

## 「デザイン」と「静粛性」で「上質さ」を実現

4つの価値のうち「上質さ」は、都会的なSUVを造るうえで特に重要な要素であり、SUBARUとして新たなチャレンジでした。今回は「デザイン」と「静粛性」という2つのポイントに注力することで、「上質さ」の実現を目指しました。その際掲げたのは、これまでのSUBARUのSUVが持つラギッドさとは異なる「土の香りがしないSUV」を目指すことでした。「静粛性」は、ベースとなったレヴォーグがもともと高いボディ剛性による静粛性を持っていたのでそれを踏襲しました。また、並行して開発していたオールシーズンタイヤが走行性能と静粛性とを両立し、非常に静粛性に優れた仕上がりになったため、ロードノイズ低減や走行時会話明瞭度ともに高いレベルで達成しています。さらに新開発のハーマンカードンサウンドシステムを標準装備したことで、臨場感のあるサウンドを聴くことができる上質な空間を創出しました。



「デザイン」については、上質さを意識しつつSUVとしてのボリューム感を出すために、さまざまな取組みをしています。この後のページでデザイナーの源田が熱い想いで詳しく語っていますのでぜひそちらもご覧ください。



生演奏のような音場空間を生み出すハーマンカードンサウンドシステム

## どんなシーンにも似合うSUV

このようにしてレヴォーグレイバックは、どんなシーンにも似合うクルマとして完成しました。SUVとしての走破性や機能はしっかりと備えているので、キャンプやフィッシングなどアウトドアで使っていただけでも十分に満足いただけます。国内専用モデルなので日本の道路で取り回しやすく、オンロードでもオフロードでもクルマとの一体感を感じながら運転していただけます。さらにシティホテルのエントランスなど、ラギッドなSUVでは躊躇うようなフォーマルな場所でも違和感なくお使いいただけます。ここは、土の香りがしないレヴォーグレイバックらしさが光るシーンです。色々なことができて、さまざまな場面に似合う新しいカテゴリーのクルマなので、ひと言で表現するのが難しいですが、ぜひお乗りいただいたり操作する愉しさ、乗り心地の良さ、静かな車内空間の上質さを感じていただければ嬉しく思います。

「お客様に豊かさをお届けしたい」  
 という情熱は誰にも負けない

デザインコンセプトは「凛」×「包」

レヴォーグ レイバックは、お客様が大切なパートナーと共に、より豊かな時間を過ごすことを想い描いて開発しました。それを実現するため、デザインにおいては「凛」と「包」という開発コンセプトを掲げました。「凛」は、ベースとなるレヴォーグが持つスポーティでシャープな様、先進性から感じられる硬質な佇まいを表現した言葉です。「包」は、それを豊かに大らかに包み込むことをイメージした言葉です。「凛」と「包」を掛け合わせることで、レヴォーグ レイバックならではの温かみや大らかさを表現し、豊かで洗練された独自の世界観を創出することを狙いました。

大らかな流れで  
 構成したエクステリア

フロントフェイスは、従来は「グリル」や、その下に構える「バンパー」というように要素ごとのデザインで

構成されていましたが、レヴォーグ レイバックはグリルとバンパーをひとつの大きな面、立体としてとらえ、大らかな豊かな表情を造り上げました。SUVらしい縦方向の厚みを表現するためにグリルウイングを視覚的に上に持たせ、厚みを感じさせています。さらにフロント先端部から左右につながる伸びやかなグリルウイングが横方向への力強い流れを生み出し、ヘッドランプを突き抜けてクルマ全体を包み込むように勢いをボディサイドにつなげていきます。また、縦の厚みと横方向の大らかな豊かな面の表情を縦フォグランプをアクセントにして左右で引き締めました。

リアのデザインはSUVらしい縦方向の厚みを感じさせるために実はフロント以上に苦労しました。豊かな面の表情と、ボディ色と下部クラッディングとの境目をどこに持つてくるかについて、ボディとクラッディングの比率やわずかな傾斜角で見え方が大きく変わることが分かり、トライ&エラーを繰り返し、「これしかない」というベストなバランスを見出しました。

リア周りの表現もフロント同様の考え方で、左右のエアアウトレットをアクセントとして全体を引き締めつつ、豊かな表情を造り上げています。

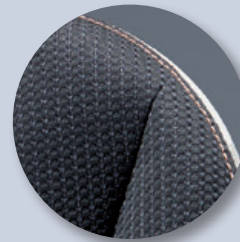


株式会社SUBARU  
 商品企画本部デザイン部

源田哲朗

## アッシュユキカッパーにブルーを添えたインテリア

シートに座ったとき、レヴォーグレイバックならではの豊かさをお届けするためにどうすれば良いのか？検討を繰り返して行き着いたのがアッシュユキカラーです。ファッション、アパレルの世界では以前から感度の高い色域で、都市型ライフスタイルのお客様には喜んでいただけるのではないかと考えて採用しました。アッシュユキカッパーのステッチを組み合わせ、トリム加飾とファブリックの黒い部分の織物にほんのり青みをミックスして表情を造り、豊かで華やかな他にはない空間に仕上げています。革内装も配色としては同じ考え方でデザインしています。



## スポーティかつ上質な新外装色 アステロイドグレー・パール

レヴォーグレイバックのイメージカラーとして開発したのが新色のアステロイドグレー・パールです。開発時に狙ったのは、スポーティでありながら上質さを表現できる色です。中程度のソリッドライトグレーで、見る方向によってパールがふわっと抜けるような豊かな表情を持たせています。また、スポーティかつ上質さを表現する狙いとして赤味の方向の豊かさを感じさせる色調に仕上げました。光の当たり方によっては紫がかって見えるところがあり、表情の変化もお楽しみいただけます。



## 「凛」×「包」の世界観を具現化したホイールデザイン

専用18インチアルミホイールは、「凛」としたシャープなスポークと「包」の発想で構成した豊かで大らかな面の表情を組み合わせて表現しました。塗装色のスーパーブラックハイルスターは、金属調の陰影のコントラストの強さが特徴です。光が当たった部分は輝度が高くキラッと輝くのに対し、陰の部分グッと落ちるので、陰影が強調されます。ホイールは造形と色の両方の効果で「凛」と「包」のコンセプトがしっかりと伝わる仕上がりとなり、上質感とスポーティさを両立しています。



SUBARUに入社してこの仕事を始めてから“造り手の熱い気持ちは絶対にお客様に通じる”という信念を持ってデザインしてきました。今回は「お客様により豊かな時間を過ごしていただく」ということに情熱を傾けてきました。その熱量は誰にも負けないと自負しています。私たちの自信作レヴォーグレイバックをぜひお店でご覧になってください。

